

2005年1月1日から2022年12月31日までの間に日本全国で院外心停止により救急搬送された患者さんへ

日本における院外心停止に関する生活習慣・環境因子の影響に関する研究

1. 研究の対象

2005年1月1日から2022年12月31日に日本全国で院外心停止により救急搬送された方

2. 研究目的・方法

本研究は総務省消防庁でオンラインシステムで収集している全国の消防署の救命救急士から得られた心肺機能停止傷病者の救急搬送についてのデータ（救急蘇生統計(ウツタインデータ)）を元に、当研究室で蓄積された各地域における各種生活習慣・環境因子との相関に関して多変量解析を用いて、院外心停止のリスクファクターを明らかにするものです。

これにより院外心停止の予防因子が推定され、院外心停止の低下および対策に繋げることを目的とします。研究期間は2019年1月25日から2025年3月31日までです。

3. 研究に用いる情報の種類

情報：救急蘇生統計（ウツタインデータ）

（発生日月日、心停止の目撃、救急救命処置等の内容等）

<データ提供元>

総務省消防庁

www.fdma.go.jp/html/hakusho/h29/h29/html/2-5-4-4.html

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、総合内科学3教室のパスワード等で制御されたコンピュータ内で保存させていただきます。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

研究責任者： 川崎医科大学 総合内科学3 小島 淳

5. 利益相反

この研究課題を実施するに当たり、本研究は、科学研究費 挑戦的研究（萌芽）（課題名：「黄砂・PM2.5」の急性心筋梗塞・心原性心停止発症に対する影響と高感受性集団の同定）の分担金、研究責任者の教員研究費及び帝人ファーマ(株)、第一三共(株)からの奨学寄付金を使用しますが、川崎医科大学利益相反委員会にこの内容を申告し、適正に管理されています。